

「カリキュラム・オーバーロード」の改善を求める意見書

令和7年6月17日

衆議院議長 様 参議院議長 様
内閣総理大臣 様 財務大臣 様
総務大臣 様 文部科学大臣 様

富士見町議会
議長 小倉裕子

今、学校現場では、小・中・高を合わせると41万人を超える不登校の子どもの数(23年度)が文科省調査で明らかになっています。とりわけ小・中学校では11年連続で増加し、過去最多となっています。また、貧困・いじめ・教職員の未配置など解決すべき課題が山積しており、長時間労働の実態も改善されず、子どもたちのゆたかな学びを保障するための教材研究や授業準備の時間を十分に確保することが困難な状況となっています。

学習指導要領の改訂は、子どもたちの豊かな学びの保障や、教職員の「働き方改革」に大きくかかわります。「カリキュラム・オーバーロード」の状態等を改善することが喫緊の課題です。このため、次期学習指導要領の内容の精選や、標準授業時数の削減が強く求められます。

よって、国会及び政府におかれでは、地方教育行政の実情を十分に認識され、地方自治体が計画的に教育行政を進めることができるよう、下記の措置を講じられるよう強く要請します。

記

- | 子どもたちのゆたかな学びを保障するため、「カリキュラム・オーバーロード」の早期改善、および学習指導要領の内容の精選等を行うこと。

※「カリキュラム・オーバーロード」とは、国の教育課程基準にもとづき、学校が定めた教育課程の時数と内容が過多(教育課程の過積載)になっていて、子どもや教職員に過大な負担がかかっている状態。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出いたします。